

# 岸田内閣の悪政に 草の根からの対決を

中央理事会開催される



奈良県本部会長 加藤 宣之

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央理事会が6月7日、東京湯島の中央本部で開催され、県同盟から加藤宣之会長が出席しました。

吉田万三中央本部会長は冒頭あいさつで、昨年6月の第40回全国大会以降の同盟活動に触れ、2022年4月から開始された映画「わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯」の上映運動が全国で8万人を超す観客動員と併せて、各

県、各支部の活動が活発化し、第一次、第二次上映会で千葉県同盟などは60名もの同盟員を拡大し、2月には署名の自主目標も達成したとの報告がなされました。

また総選挙含みの情勢のなか、参議院選以降、岸田内閣の悪政が加速し、軍拡財源法、原発推進法、改悪入管法、マイナンバー法・健康

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
奈良県本部  
〒631-0033  
奈良市あやめ池南1-9-27  
加藤宜之気付  
☎ 0742-43-0762  
振替 0990-2-209460  
治安維持法国賠同盟  
奈良県本部

## われわれの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

一、治安維持法体制の復活に反対する

二、国は、治安維持法が人道に反する惡法で

あつたことを認めること

三、国は、治安維持法犠牲者に賠償を行うこと

保険証の廃止など多くの国民の反対の声を押し切って自民、公明、維新、国民党の4党が数の力でたとえ可決しても、法の施行までの間で多くの矛盾の続出が予想され、結果として事实上実行中止に追い込むことが重要と力説。その中の国賠同盟ならではの役割を果たし、これらの悪政に立ち向かう草の根からの運動と若い世代への働きかけと継承の重要性が強調されました。

次に田中幹夫事務局長から今年5月16日の第50回国会請願と今年4月から6月30日までの「国会請願・中央理事会成功特別期間」についての活動報告、榎本よう子事務局次長からは本部財政の22年度決算と23年度予算案の提案があり、承認されました。（2面に続く）

(1面から続く)

## 会員拡大、顕彰活動など討論

討論では16県同盟から発言があり、主として6月末までの特別期間中の署名・会員拡大運動、支部づくり、治安維持法犠牲者である埼玉県の原菊枝の顕彰碑、山口県の田中サガヨの墓前祭、そして徳島県では「笹の墓標」の講演と展示などの顕彰活動が報告されました。

なお4月30日に行われた奈良県の「長谷川テル訪問記念の碑」除幕式に

ついては、閉会時間との制約上、文章発言となりました。

中央理事会の最後に、「会員拡大特

別期間を成功させる「案」と「大軍拡、大増税でなく、外交努力で平和を守れ「案」」の2つの決議案が全員一致で採択されました。

## ご挨拶

奈良県本部副会長 小林 照代

4月の県議会選挙では、ご支援ありがとうございました。

ご支援にお応えできず、心苦しく思っておりましたところ、この度以前から常任理事として関わらせていただきました「国賠同盟」のみなさまから副会長をとのお話をいただきました。

これまで常任理事といっても、名ばかりでその役割を果たすことができませんでしたので、その分を取り返すためにも、副会長を務めさせていただくことになりました。

岸田政権は、昨年末の安保関連3文書を閣議決定し、敵基地攻撃能力の保有など、今後5年間で43兆円にものぼる大軍拡を進め、この予算国会では「軍拡財政法」を強行しました。

憲法の平和主義を踏みにじり、国民のくらし破壊につながる、再び戦争する国づくりを決して許すことはできません。

憲法の平和主義を踏みにじり、国民のくらし破壊につながる、再び戦争する国づくりを決して許すことはできません。

再び戦争と暗黒政治を許さないために、戦前過酷な弾圧に抗してたたかった先覚者たち=治安維持法の犠牲者たちに国の謝罪と賠償を求める「国賠同盟」の運動にみなさんとともに力を尽くしてまいります。

よろしくお願いいたします。



自衛隊奈良基地への申し入れ=5月13日

5月13日、  
奈良基地を  
訪れ、昨年

■市民生活を脅かす自衛隊機  
の展示飛行やめよ

6月6日に行われた自衛隊奈良県基  
地祭で、今年も展示飛行が行われ、市  
民生活や貴重な世界遺産、文化財を危  
険にさらし  
ています。

戦闘機の展  
示飛行に反  
対する奈良  
市民の会は、

対応した法務班長は、「勉強不足で  
わかりません」を繰り返し、明確な回答  
は無く、実に不誠実な態度に終始しま  
した。

■子ども、若者が狙われている

小学6年の子どもがお小遣いでペッ  
トボトルを買いました。「ジャングルマン」  
と書かれたペットボトルには、QRコー

ドがついてお  
り、「自衛隊力  
ツコいいなア」  
と思うような  
イメージ写真  
が満載。早速  
問題学習会=6月16日  
会社に販売中  
止を求めて要  
望書を持ち訪  
問しましたが、門前払いであつたとのこ  
と。

また、奈良市内のある中学校では、  
職業体験の場として7カ所が紹介され、  
その一つに自衛隊があげられたそうです。  
今、子どもたち、若者たちが狙われ  
ています。

「私の個人情報を守って!」奈良市  
民の会は奈良市長に、18才22才になる  
若者の自衛官への情報提出の中止を要

■市民生活を脅かす自衛隊機  
の展示飛行やめよ

6月6日に行われた自衛隊奈良県基  
地祭で、今年も展示飛行が行われ、市  
民生活や貴重な世界遺産、文化財を危  
険にさらし  
ています。

の申し入れに1年間無回答だつたこと  
に厳しく抗議、改めて回答を求める  
とともに、基地強勒化計画と土地利用規  
制法に関するも申し入れ、質問を行い  
ました。



問題学習会=6月16日  
自衛隊問題学習会  
会社に販売中  
止を求めて要  
望書を持ち訪  
問しましたが、門前払いであつたとのこ  
と。

講・質問を行い、6月16日に同会主催の学習会を開催しました。

### ■地方自治体は若者を戦場に送るたぐりみに加担するな

自衛隊は自治体に対し、18才と22才の個人情報（氏名、性別、住所、生年月日）の名簿提供を要請し、入手した情報で隊員募集活動を行っています。2019年、「全国の6割以上の自治体が協力を拒否」と当時の安倍首相は名簿提供に応じない自治体をなじりました（大半の自治体は閲覧対応）。ところが（55%）と急増しています。

ここ数年、名簿提供自治体は962閲覧では、膨大な事務作業が発生するため政府・防衛省は名簿提供を強く求めます。ではなぜ提供自治体が100%にならないのか？ 自治体に名

簿提供を義務づける法令が存在しないからです。そもそも大量の個人情報を交付するという想定は住基法にはありません。

### ◇川 柳◇

特殊詐欺 被害者のことく 軍備拡大  
夏バテに 負けじと歩き 熱中症  
初々しい 苗の青さが 雲散らす  
郡山支部 杉本英雄

現在奈良県では、生駒、天理、郡山、香芝、葛城、五条の6市、広陵、上牧、王寺の3町が名簿提供を継続し、奈良市が2023年度から閲覧から提供に変更しました。これまでも、引き続きこれからも名簿提供を止めるべきだと申し入れを行っていきます。

この問題は、自衛官不足という戦争する国づくりの弱点の表れです。

安保3文書の改訂により、戦争準備が進む今こそ「若者を戦場に送るな」「自治体は個人情報提供をやめよ」との運動を大きくする必要が迫られています。

怒と憤は似て非なり意味を知り  
官邸はドラ息子の遊園地  
奈良の愚僧

治安維持法コーナーで  
「長谷川テル」持集

このコーナーは、長谷川テルの特集をします。顕彰碑の除幕式が般若寺で行われたこともあり、一人でも多くの方に長谷川テルを知つて頂きたいと企画しました。展示については、大阪の日中友好協会に厚いご協力を頂いています。

# 平和のための奈良市戦争展

7月27日(木)~30日(日)

7月27日(木)  
~7月30日(日)  
まで、生涯学習センターにおいて、「平和のための奈良市戦争展」が開かれます。  
昨年までの規制がはずされ、治安維持法のコーナーも復活です。



「平和のための戦争展」に展示する一部

澄江さんです。また、戦争体験の語り部は副会長の小林照代さんが、子どもの頃の怖かった防空壕での体験を語ります。被爆体験は金治貞男さんです。他にも、生駒市の星野智さんが、ウクライナの問題を、沖縄三島の状況を宮城恭子さんが報告。核兵器禁止条約の署名に声をあげる高校生たちの記録や、映画「浮島丸サコンエイジアン

のは、県本部常任理事の田中川テルについてお話しします。

29日

ブルー」は、日本の植民地支配や侵略戦争の事実を直視し、強制連行・強制労働をはじめて描いた異色作です。観て、聞いてほしい企画ばかりです

## 治安維持法国賠同盟奈良県本部

### 6月度現勢報告

2023.6. 30

①会員現勢 390名（前月比増1）

②国賠署名（2023年6月30日現在）

団体署名	1（前月比増1）
------	----------

個人署名	140（前月比増140）
------	--------------

## 2023年国賠同盟奈良県本部総会

8月20日（日）午後1時30分より

奈良市生涯学習センター3F

記念講演を予定しております。詳しくは次号にてお知らせします。  
みなさんのご協力で、希望あふれる総会にしましょう。

## 土臭きしづくと闇と人いきれと防空壕に 握る母の手

季節の  
言の葉

戦争の時の体験を語るという事は、生半可な気持ちではできません。恐怖や苦しみ、悲しみなどを乗り越えて、覚悟を決めてお話になるのですから、聞く方もしっかりと受け止め、語り継ぎ、平和の運動へと結びつけていきたいものです。

## 編集後記

じりじりと灼ける炎天下、ボタボタと汗はしたたり落ちる。眼に入ると痛い。「暮らしを守り大軍拡を止めよう！」「新たな戦前にはさせない！」横断幕を掲げながら暑さに負けじと叫びます。

岸田首相が戦後の安全保障政策を大転換させる大規模な戦争準備に乗り出す。戦争か平和かの歴史的岐路のもとで、私たちは平和への歩みを強めます。

岸田大軍拡を何としても止めようとする行動です。憲法のこと、自衛隊のこと、マイナンバーカードのこと、ジェンダーのこと、あまりにも山は大きいけれど、私たちは歩みを止めない。汗かきながら、べそかきながら、歯をくいしばり「平和を守れ」「再び暗黒政治を許さない」と歩いていきましょう。

E・I